

平成27年度全国及び岡山県学力・学習状況調査 結果と今後の取組について【学校版】

津山市立北小学校

教育目標(めざす児童生徒像)

やさしく かしく たくまい 北小の子の育成
 ~ どの子にも楽しい学校を どの子にもわかる授業を ~
 (児童像)
 ・思いやりのある言動ができる子ども
 ・伝え合い、学び合う子ども
 ・かかわり合い、最後までやりぬく子ども

今年度の指導の重点

- 1 お互いを理解し、認め合い、思いやりのある言動ができる力を育てる。
- 2 授業を工夫し、確かな学力の充実を図る。
- 3 達成感を味わえる活動を取り入れ、人とのつながりを深めさせる。
- 4 ほめて伸ばす生徒指導の充実を図る。

調査結果について(調査結果において明らかになったこと)

【学力状況調査の結果】

全国
 国語A問題: 県平均、全国平均を上回っている。
 国語B問題: 県平均、全国平均を上回っている。
 算数A問題: 県平均、全国平均を上回っている。
 算数B問題: 県平均並みである。
 算数B問題の四つの数を四捨五入して、千の位までのおよその数に表し計算する問題の理解: 本校67.3% (全国52.6%)、単位量当たりの大きさの理解: 本校69.4% (全国64.8%)と全国を上回っている。
 算数B問題の単位量当たりの大きさの理解はできているが、比較量と割合から基準量を求める問題の理解8.2% (全国13.1%)で全国を下回っている。
 算数B問題の「わけ(理由)」を記述する問題(4つ)の無回答率12.2%、20.4%、20.4%、16.3%であり、2割近い児童がわけを書くことを苦手としている。
 理科: 県平均、全国平均を上回っている。
 県
 国語、社会は平均を上回っている。
 理科は、県平均並みである。
 数学は、県平均を下回っている。

【学習状況調査の結果】

本年度もあいさつは、できているという意識が県平均より高い。
 テレビ等の視聴時間は、2~3時間の児童が多く、4時間以上の児童も2割程度いる。
 携帯電話やスマートフォンでの通話やメール、インターネットをする割合は、県平均の数値に近い。
 家庭学習の時間は、全くしない児童はいない。2時間以上している児童は3割程度いるが、1時間未満の児童も3割程度いる。
 読書が好き・どちらかといえば好きと答えた児童が8割近い。30分以上読書する児童は4割程度。
 例年通り、「自分にはよいところがある」と自己肯定感も高く、学校に行くのが楽しい、授業が楽しいと感じている児童や、地域の行事に参加している児童も多い。
 将来の夢や目標をもってしていると答えた児童が8割近い。高学年を中心としたキャリア教育の成果が出てきていると考えられる。
 「ものごとを最後までやり遂げて、うれしかったことがある」と答えた児童が9割近い。運動会や学習発表会、福祉活動などの学校行事等の達成感が高いのではないかと考えられる。
 国語・算数・理科全ての教科において、授業の中で自分の考えをまわりの人に説明したり、発表したりしていると答えた児童の割合が7割近い。説明する力を意識した授業を全校で意識して行っていることが伺われる。

成果と課題

学習方法を学校で指導したことが、自主学習の取り組みやテストで間違ったところを解き直すなどの割合が高いことにつながっており、指導の成果といえる。
 学年末に「各学年これだけは、必ず習得させたい内容を決め、徹底して指導する取り組みをした結果、国語、算数ともに基礎的な問題について大きな改善が見られた。
 学校で落ち着いた雰囲気や授業ができており、自分の考えを持って、グループや学級全体で話し合う機会もとれている。
 各教科が好きと解答した割合が高く、学習に対して前向きな児童が多い。特に算数は、少人数指導による個に応じた指導の成果が出ている。
 学習に対する意欲は高く、基礎的な問題について改善が見られるが、活用力の課題が残る。
 授業で自分の考えを書く(時間や討論の時間をとっていることが、記述問題に対して前向きに取り組む姿勢につながり、力もついてきている。その反面、記述問題に対して苦手意識がある児童への更なる対応が課題である。
 国語Aでは、漢字の読み書きの正答率が高い。(例「招く」の読み本校100%)
 算数Bでは、全体と部分の関係を示すために用いるグラフを適切に選択する問題に課題がある。(本校43.4%、県57.6%)
 算数をはじめ、各教科とも活用型の問題が課題である。

課題に対応した改善方法

学力向上プロジェクトチームを作り、全校で学力向上に取り組む。
 次の5つを重点とする。
 自分の考えをノートに書く活動・話し合い活動を多く取り入れる。
 くすのきタイム(朝の学習時間)の計画に復習タイムを取り入れて既習事項の定着を図る。
 3学期のくすのきタイムでは、「各学年これだけは、必ず習得させたい内容を決め、全教職員で指導にあたる。
 東書ライブラリーや記述式問題集を活用し、基礎的な学力を活用した問題への苦手意識をなくしていく。
 家庭学習の手引きを刷新し、学習時間や自主学習等の啓発を行う。
 その他に、今まで取り組んできた取組として、
 学年、学級通信で自学ノートの例や方法、課題のヒントなどを紹介する。
 新出漢字指導 確認小テスト 学期末にまとめテスト(合格点に達しなければ再テスト)のサイクルを続けていく。
 テスト実施時に確かめ、解き直しを必ずさせる。
 読書の奨励
 自学のノート、ノートの児童玄関への掲示 等を継続して取り組む。

取組の検証方法及び検証時期

保護者・児童アンケートの実施(2学期末)
 授業評価シートの活用(学期ごとに)
 5年生確かめテストの結果を分析・検証
 3年NRTの結果を分析・検証(結果に応じて算数チェックシートを活用)
 上記の結果を受けて、改善方法の見直しを図る。

平成28年度津山市達成目標に対する具体的な目標(数値目標等)

各学年の家庭学習の取組時間を規定時間以上にする。
 算数記述式の問題の無回答率を2割以下にする。
 ゲームをする時間が2時間以下の児童を7割以上(今年度69%)に増やす。
 スマホを使う時間が1時間以下の児童を9割以上(今年度93%)を継続していく。